

平成23年度 施策達成度評価シート (平成22年度実績評価)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
6	環境との共生	61	生活環境の保全

施策主管部 環境部	評価者(施策統括マネージャー)名 細川 恒
-----------	-----------------------

1 施策の目的(目指す姿)

対象 (誰を,何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
市民、市域	身近な生活環境が良好に保たれる。

2 達成度

(1)成果指標

指標名	単位	指標の性格	H21実績値	H22年度計画 (年度目標値)	H22実績値	H23計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
市民アンケート調査「清潔で衛生的、公害がないといった点で、きれいなまちだと思ふ」と答えた市民の割合	%	↗	68.60	49.00	70.40		
生活公害に関する苦情件数	件	↘	96	89	82	88	85
焼却処理施設での年間処理量	トン	↘	97,575	101,983	91,136	91,561	95,511

(2)近隣自治体との成果水準比較

指標名	他自治体の状況等
市民アンケート調査「清潔で衛生的、公害がないといった点で、きれいなまちだと思ふ」と答えた市民の割合	他都市において、同様の調査は行っていない。
生活公害に関する苦情件数	盛岡市96件 秋田市67件 青森市57件 八戸市70件 山形市116件 仙台市145件 ※福島市は回答なし
焼却処理施設での年間処理量	盛岡市91,136トン 山形市80,152トン 八戸市70,699トン ※他都市は速報値。仙台市、いわき市は回答なし。

3 達成度評価結果

取組内容と成果、成果を得られた要因	<p>○環境衛生の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民、関係団体との協力によるごみ排出抑制の取組等により、ごみ減量は目標を上回る成果を上げている。 ごみの早期収集地域の拡大により、ごみ集積場所の清潔保持を進めた。 関係団体と連携して、違反ごみ撲滅キャンペーン及びポイ捨て禁止キャンペーンに取り組んだ。 市街地へのポイ捨て禁止シールの設置により、ポイ捨てごみは年々減少している。(定点観測地では半減) 不法投棄の監視や廃棄物の撤去を行ったが、通報件数は増加している。 市廃棄物業協会のボランティア清掃に協力し、協働による不法投棄防止に係る啓発を進めた。 クリーンセンター及びリサイクルセンターは、公害防止協定等に基づく適正な運営管理に努めたが、クリーンセンターにおいて22年8月15日にCO濃度が1776日ぶりに協定値を上回った。 生活公害に関する苦情件数を減少させる具体的な方策はないが、苦情の解決率の維持・向上が図られた。 <p>○公害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 公害防止法に基づき、大気、水質、騒音、振動、臭気(新規)の観測を行い、公表した。 大気は光化学オキシダントにより、水質は河川の大腸菌群の一部基準超過により目標値を若干下回ったが、原因を特定し、対応することが難しい状況にある。 また、法例で対応できない事例が多い。
翌年度以降の課題、その要因	<p>○環境衛生の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民、関係団体と連携し、さらなるごみの発生抑制及び分別の徹底により、廃棄物処理施設の延命化を図る必要がある。 クリーンセンターの機能を確保するため計画的な改修を行う必要がある。 老朽化が進む廃棄物処理施設の整備計画を早期に策定し、適切な環境衛生の確保を図る必要がある。 <p>○公害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 原発事故に起因する放射能汚染というこれまで想定していない状況を受け、市民の安全・安心を確保できる体制について、早急に検討する必要がある。

